



2011年6月22日

## フィリピン英語留学意識調査

### ①高い満足度、高いリピート希望率

「今回の留学は、留学をしたいと思った理由を満足させるものでしたか」という問いに、合計95.8%が「満足させた」「やや満足させた」と回答。

フィリピンでまた英語の語学留学をしたいと答えた人の割合は70%近くに上った。

### ②低予算・高品質なマンツーマン授業

事前調査ではフィリピンを選んだ理由として最も多かった回答は「費用が安い」(84.1%:M A)だったが、事後調査で良かった点を挙げてもらうと、一位は「マンツーマン授業が多い」(78%)となり、低予算・高品質との評価が得られていることが分かった。

### ③英語に対するコンプレックスを軽減

事前調査で英語に対して「強いコンプレックスを感じている」、または「コンプレックスを感じている」と答えた人の8割以上が、コンプレックスが「随分なくなった」「少しはなくなった」と答えた。

フィリピン政府観光省

グローバル化にともない、いまや英語力は国際教養として欠かせないものになっています。大手企業では英語を社内公用語にするところもあり、英語の習得が死活問題となる社会人や学生が増えているようです。そうしたなか、費用対効果が高く、短期間で成果が現われる英語習得の機会として、フィリピンでの語学留学が注目され始めています。フィリピンは、1900年以來およそ40年間にわたってアメリカの植民地であったために、英語に堪能なフィリピン人が大勢います。実のところ、英語を話せる人口の割合は、フィリピンは世界で三番目に多いのです。そうしたことも手伝って、語学留学を目的にフィリピンを訪れる外国人の数は増加しており、積極的な受け入れ態勢を整えております。

そこで、実態を検証するためにJTB法人東京（東京都新宿区；代表取締役社長 川村 益之ノ以下、JTB法人東京）に依頼し、日本からフィリピンへの語学留学者を対象に、事前調査と事後調査を行い、その現状や潜在力を探る調査を行いました。調査結果の概要は以下の通りです。

## <調査概要>

調査実施期間と方法：平成22年1月～12月、配布回収法（自記式）

調査対象者：期間中にフィリピン調査協力校へ語学留学に行った男女400名

回収率：事前調査40.3%、事後調査36.3%

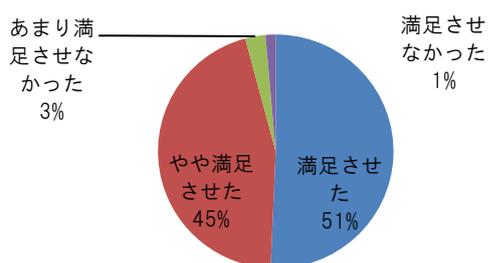
回答者構成（事前）：男性54%／女性46%、20代以下51.9%、30～50代32.3%、60歳以上15.9%

（事後）：男性55%／女性45%、20代以下45.2%、30～50代31.0%、60歳以上23.8%

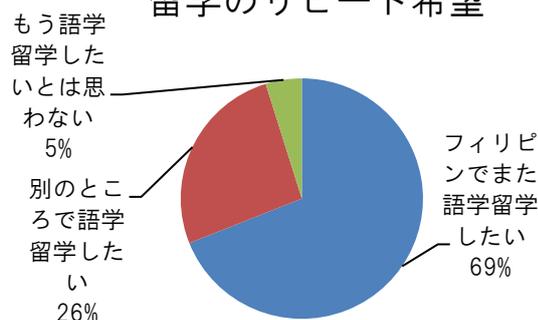
## ①高い満足度、高いリピート希望率

「今回の留学は、留学をしたいと思った理由を満足させるものでしたか」という問いに、合計95.8%の人が「満足させた」「やや満足させた」と回答（グラフ1）。さらに、「フィリピンでまた英語の語学留学をしたいですか」という問いには、69%の人が「また語学留学したい」と回答しています（グラフ2）。この結果からも明らかなように、フィリピンに語学留学をした人の満足感はいへん高く、それが高いリピート希望率につながっていると言えます。

グラフ1：留学満足度



グラフ2：フィリピン語学留学のリピート希望



## ②低予算・高品質なマンツーマン授業

同じ選択項目を用いて、事前調査では留学先にフィリピンを選んだ理由を尋ね、事後調査では実際に良かった点を尋ねました。事前調査の結果では、留学先にフィリピンを選んだ理由は「費用が安い」が84.1%、「マンツーマン授業が多い」が80.3%となり（複数回答）、総じて安くマンツーマン授業が受けられることが、留学先としてフィリピンが選ばれた理由であることが分かりました。

事後調査の結果は、良かった点として、最も多かった回答は「マンツーマン授業が多かった」77.9%であり、マンツーマン授業の実際の評価も高いことがうかがえます。

表1 フィリピンを選んだ理由

マンツーマン授業が多い	80.3%
日本人が少ない	28.7%
勉強に集中できそう	23.6%
費用が安い	84.1%
フィリピンに親しみがある	14.6%
日本から近い	37.6%
アクティビティが充実している	6.4%
その他	3.2%

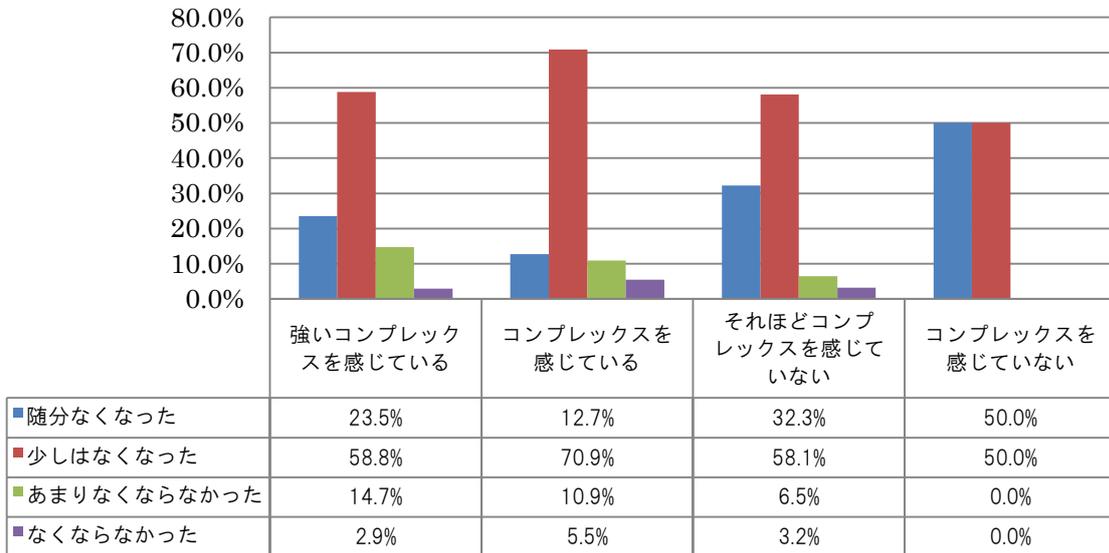
表2 留学先で良かった点第一位

マンツーマン授業が多かった	77.9%
日本人が少なかった	3.4%
勉強に集中できた	3.4%
費用が安かった	5.5%
フィリピンに親しめた	7.6%
日本から近い	2.1%
合計	100.0%

### ③英語に対するコンプレックスを軽減

事前調査と事後調査で、英語に対するコンプレックスの有無と、コンプレックスが解消されたかどうかについて尋ねました。その結果、事前調査で英語に対して「強いコンプレックスを感じている」、あるいは「コンプレックスを感じている」と答えた人の8割以上が、コンプレックスが「随分なくなった」「少しはなくなった」と回答しています。（グラフ3）。フィリピンでの低予算・高品質の語学研修により、英語への苦手意識を克服する人も大勢いることが分かりました。

グラフ3：英語へのコンプレックス（事前と事後）



## ■フィリピン語学留学の可能性

ここに挙げた以外にも、調査からはフィリピンへの語学留学の魅力が多く見出されました。たとえば、日本に近く渡航時間が短いこと、物価が安いこと、社会貢献やビジネス展開のためのさまざまな機会があることなどです。また、フィリピン政府観光省は、衛生や治安の面でも改善を進めており、観光地としても、市場としても着実な発展を遂げています。不況や震災の影響で節電が続く中、費用対効果の高い語学留学先として、フィリピンは今後ますます高い評価を受けることになるのは間違いないようです。

《報道関係の皆様のお問合せ先》 フィリピン政府観光省 03-5562-1583  
〒106-8537 東京都港区六本木 5-15-5 フィリピン大使館内  
担当：横山